

# 復興支援 トピックス

## ドローンの長距離試験が本格化

福島ロボットテストフィールドは、物流やインフラ点検などに活用できる無人航空機や災害対応ロボット、水中探査ロボットといった、陸・海・空のフィールドロボットを対象に、施設内で実際の使用環境を再現しながら研究開発、実証試験、性能評価、操縦訓練を行うことができる、世界に類を見ない研究開発拠点として、南相馬市及び浪江町に整備を進めています。

そのトップを切って2018年7月20日、ドローンの安全な飛行を支える機能を集約した「通信塔」が開所しました(写真1)。また、これに併せて、福島ロボットテストフィールドが立地する福島県南相馬市と浪江町の間の約13kmを「広域飛行区域」に設定しました(図1)。開所した通信塔には、長距離通信を確保する通信アンテナ、一帯の有人機や無人機、鳥等を検知し、衝突や異常接近を回避する空域監視レーダー、一帯の上空の風向風速を検知する気象観測ライダーの機能があります(図2)。また、広域飛行区域には、福島県浜通りロボット実証区域として140件以上の試験で培った地域との信頼関係に基づいて、円滑に試験ができる環境を整えております。

ドローンの目視外飛行を行う場合、①第三者の立ち入り管理、②有人機の監視、③自機の状態の監視、④飛行中の周辺の気象状況の監視、などの要件がありますが、現状でこれらの要件をワンパッケージで満たしている機体はまだ存在しません。そこで、新しい機体の登場を待つのではなく、福島ロボットテストフィールドの通信塔を利用して不足分を補うことで、目視外飛行を容易に行うことができます。福島ロボットテストフィールドを活用し、ドローンを活用した新たな市場を開拓していただければと考えております。



図1 広域飛行区域



写真1 通信塔

### 福島ロボットテストフィールド 通信塔

- ドローンの長距離飛行(目視外飛行)試験において、安全を確保できる機能を持つ通信塔を7月20日に開所。

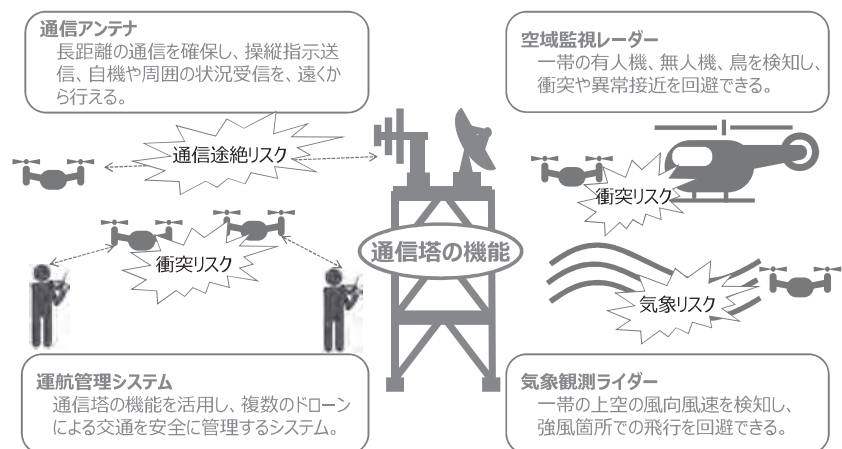


図2 通信塔の機能

(文責 / (一財)福島イノベーション・コースト構想推進機構)